

事務局だより

SHIGENKAI

一般社団法人

示現会

N03

2020・7・30

- 豪雨報告
- 事務局の仕事

- <特集 1>台湾の示現会活動報告
- <特集 2>コロナに負けずに!
- 7月の研究会・9月研究会

今年の梅雨は例年になく雨量が多く、特に線状降水帯豪雨として各地に多くの被害を及ぼしました。特に九州方面がひどく、多くの被害が発生しました。

7月豪雨災害

被害にあわれた皆様に心からお見舞い申し上げます。



人吉市の様子 金山 充さん(準会員)より提供

コロナ騒動の中、大雨による河川の氾濫で特に九州を中心に甚大な災害が発生しました。特に被害の大きかった、熊本、久留米支部の様子を支部長からお知らせします。なお、福岡、岐阜も大雨による河川の氾濫も報道されましたが、それぞれの支部長から支部員の被害は入っていない、という連絡をいただきました。大勢の方が被災された今回の豪雨です。災害地区の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

例年梅雨明け前に集中豪雨があるのだが今年のそれは桁が違った。屋根瓦が割れるのではないかと思うほどの雨音で目が覚めた。雨音で目が覚めるというのは普通ではない。この度の豪雨は熊本県下に多くの被害をもたらしたが中でも球磨川水系は大惨事となった。人吉市を中心に球磨川沿いは水位 4メートルの濁流が市街地を襲ったようで無残な状態である。示現会準会員の金山 充さん、畑田優実さんにすぐ電話を入れたが二人とも家が少し高台にあって無事だということであった。が、翌日からお手伝いとか仕事先の方が大変だったようだ。私の方へ示現会の方から心配のお電話やらお葉書を頂きました。心温まるお言葉有難うございました。熊本支部長 小村啓治

今回の豪雨によって 熊本、福岡(久留米)大分(田田)では河川が氾濫し被害が甚大でした。久留米支部の活動拠点は筑後平野に筑後川が流れ筑後の風土の中で芸術の歴史が続いています。また筑後は全国有数の農業地帯でもあります。しかし私達支部員の方は 幸運にも浸水被害には免れました。けれども今後は地域の災害を把握しながら支部活動でもある西部示現会展の11月開催に向かって作品制作に頑張っています。皆様には大変ご心配をかけております。

久留米支部長 江口 登

庶務

示現会の業務は庶務、会計、研究所と分担され事務責任者と事務責任者補佐の指揮のもとに行われます。その内の庶務は、総会、理事会、各委員会の事務を受け持っています。また、展示会の準備では、関係官庁への申請から各係との調整、分担、推進、また各支部との打ち合わせ等々。そして皆様へのお知らせ文書の発送までを行っています。

山手線駒込の駅から徒歩5分、示現会会館があります。ここが示現会の研究所となります。会館は3階建てになっており、1階と3階を使用して研究会が行われ、また絵画教室等が開講されています。2階は会議室になり総会の会場、委員会、又それぞれの係の会議や作業に使用されています。武研究所所長を中心に計画されている絵画教室にはどなたでも参加できます。ホームページでも案内していますので是非ご覧ください。

研究所



事務局の紹介



事務局は「庶務」「会計」「研究所」と3つの組織で活動しています。それぞれがどのような仕事なのか紹介します。

会計

示現会の活動は皆様の年会費で行われます。国立新美術館で開催される示現会展は、約2000万円かかります。そのほか、本部分行事としての研究会、各支部の巡回展の補助金そして役員の指導費交通費、さらに支部公募展への補助をします。駒込にあります示現会会館の維持、運営費なども大事な支出の項目になります。会のお金を預かるのですから、専属の会計事務所と契約、指導を受けながら石橋会計主任を中心に会計監査資料の作成、税金関係など適切に処理をしています。



【「新しい活動様式」の検討について】

新型コロナウイルス感染拡大による大きな社会変化の中、皆様におかれましては日常生活はもとより画業(取材等々)など様々な場面で制約が続き心労多きことと拝察します。そんな中で世間では、この時間を使って「新しい生活様式」を考えることが必然的に求められています。示現会としても今までの様式での活動では対応しきれないことを認識し、まさしく「新しい活動様式」を模索し具現化しなければなりません。会誌にも記しましたが、課題は諸々あります。会員の高齢化も確かに進んでいます。しかし決してそれを危惧しているだけでは何も見えてきません。そこで今回ご紹介したい事があります。それは特別委員会が立ち上がったことです。【構成委員:事務局員除く理事・監事の10名体制】事務局とも連携をとりつつ、一丸となってこれらを推進してまいります。

主たる喫緊の課題は、次に予定している74回展をどう開催していくかの提言です。皆様におかれましては具体的な提案、アイデア等ありましたら是非お寄せください。当委員会(委員長 土田理事)で採り上げ検討します。

提出先は、土田委員長宅、事務局員宅、ホームページ及び会館宛、メールを歓迎しますがお手紙でも結構です。どんな些細な提案でありましてもそれがヒントとなり大きく弾けることがあります。これは、とりもなおさずお互いの作品づくりと発表機会の環境づくりの一環です。是非ご協力をお願いいたします。

最後に皆様のご健康と一日も早い感染終息を心より祈っています。

庶務主任 錦織重治



私たちも頑張っています！台湾の仲間たち

特集1

示現会の支部は全国に15あります。それぞれ巡回展、支部展、公募展などを開催、併せて研究会、写生会また親睦を深める新年会や忘年会など独自の活動を行っています。支部の活動につきましては示現会ホームページの「支部紹介」をご覧ください。

しかし、地域で集まり研究会や、展覧会などを開催して活動しているグループもあります。札幌を中心とした北海道地区、宮城では仙台地区が頑張っています。順次紹介する計画です。まずは最初は台湾の様子です。年々参加者が増え、さらに今年2月には高雄で台湾示現会展を開催、展覧会の様子は新聞、テレビで取上げられ大盛況でした。

展覧会に合わせ、作品研究会が計画され、成田理事長、佐藤常務理事が高雄まで行き、73回展に向けての作品を指導しました。



新聞でも大きく取り上げられました。



研究会に参加した皆さん

台湾便り 周天龍

「示現会」は台湾にて活動している私達にとりまして常に精進し成長する為の泉です。台湾においては近年 出品者も増え、林智信さん胡淑英さん張富枝さん等含め15人余となりました。今迄 諸先生方からご指導頂きました賜物と感謝致しております。又 今年2月頃、コロナウィルスの蔓延が危惧される中、成田先生、佐藤先生には台湾までお越し戴きご指導願えました事、誠に感謝の念でいっぱいです。残念なのは、19名になった出品者が示現会展に出せなかったことです。コロナの辛い時期を乗り越え、来たる74回展が無事開催出来ることを祈りまして 更に 皆、自身の絵に對峙し描写力をつけるよう頑張っております。



テレビ局のインタビューを受ける成田理事長



7月研究会報告

7月の研究会に一般から会員まで101人が参加しました。初めて参加する方も多く、参加者からは、「東京まで作品を持っていくのは大変ですが、今回のような形式なら本部の研究会に参加も無理なくでき、先生方の指導は大変うれしいです。」という言葉をいただきました。コロナ騒動の中でどのような形式が取れるのか、と検討を重ねた今回の研究会でした。今後さらに参加する皆さんに満足いただける方法を考えていきたいと思っています。研究会にはどなたでも参加できます。皆様をお待ちいたします。

まとめ役として活躍する 周天龍氏

- 1970 台湾台陽美術会会員
- 1977 高雄県文化センター展示品審議委員
- 1981/84 日本造形教育会議新潟大会/長野大会台湾代表
- 1985 中華民国油画創立会員
- 1994 第47回示現会初入选
- 1996~2006 高雄市美術館典藏委員
- 2006 示現会会員
- 2017 第70回示現会記念展 会員賞
- 2019 改組 新 第6回日展入選



9月研究会実施方法

研究会 9月6日(日)

参加者は、7月と同じく写真、またはデータでの参加になります。

8月24日より受付開始

9月1日 締め切り【厳守】

日展に応募される方は特に参加をお待ちいたします。詳しくは、NO2の事務局日より、またはホームページの研究会をご覧ください。

特集2

こんな素敵なカードをいただきました。

「しばらくは、離れて暮らす「コ」と「ロ」と「+」。つぎ会う時は「君」という字に

コロナに負けずに

今年度より会計副主任として活躍中の遠山さんからの近況です。

コロナの中で授業再開

緊急事態宣言が解除され、都内では三桁の感染者数が続く中、私の赴任する高校ではほぼ平常通りの授業が再開されています。空調設備のない工芸室では、マスク姿の生徒たちが「先生、これ何かのバツゲームですか?」とかいいながら、陶芸の制作を楽しんでいます。

遠山厚史(事務局・会計副主任)

やっつけろ!



暑い中マスクで製作中 (写真遠山)

皆さんからの一言を募集中です。

メール先 佐藤祐治宛 1941sato@gmail.com

なお、示現会のホームページの「メールでのお問い合わせ」でも投稿できます



示現会ホームページ

